

指導のポイント

- 一人一人の生徒の意欲を高め、授業に引き込むために多様な表現活動の工夫をします。
- 生徒と生徒及び自分自身との対話が深まるよう、表現する活動の内容や場面を工夫します。

具体的事例

役割演技

生徒に特定の役割を与えて、即興的に演技をさせ、主人公の気持ちを考えながら、自己を語らせます。

生徒同士の役割演技や教師と生徒の役割演技など、役割演技を取り入れる場面や生徒の実態に合わせて工夫しましょう。

資料名「心の涼風」の例

(出典 彩の国の道徳 「自分をみつめて」)

ア 主人公を演じる

主人公「康雄」と友人「誠」を演じる生徒たち



★話合いが深まったペアに全体の前で再現してもらう。

★代表の生徒に演じさせるだけでなく、演じたことをもとに、クラス全員でねらいとする道徳的価値に迫るための話合いを行いましょう。

演者に対して：「演じながらどんなことを考えたか？」

「どんな気持ちで演じたか」など

観客に対して：「演技を見て、気づいたことはあるか？」

「演技を見て、どんなことを考えたか」など

※生徒が自分の考えと比較しながら友達の演技を見ることができるよう言葉かけをしましょう。

Point



イ 主人公以外の登場人物を演じる

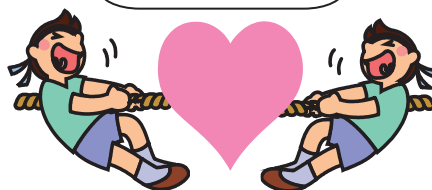
主人公（康雄）の心の変容のきっかけになった人物（誠）の気持ちや想いを考え、それを伝えることで、より主人公の心の葛藤を掘り下げることができます。



ウ 一人の心の内の葛藤を二人で演じる

ハードルは元々苦手だったし、100メートル走に専念するのでもいいかな。

心の綱引き



あきらめたくない。最後まで頑張ってみよう。

<役割演技を取り入れる前に>

○背景にある主人公のつらさや弱さ、戸惑いなどを明確にしましょう。

康雄は左腿のけがでしばらく練習を休んでいた。走りたいのに思うようにいかない。
←康雄のつらさを十分に共感させましょう。

○誰がどちらの役をやるか確認しましょう。

○演じる上での条件を設定し示すことにより、話合いがスムーズにはじまります。

誠 「やっぱり俺はお前と一緒に大会に出たい。」←このせりふからはじめると
いう条件を設定します。

康雄 「(康雄になりきって考えを述べさせましょう。)」
この後、誠、康雄になりきって考えを述べ合います。

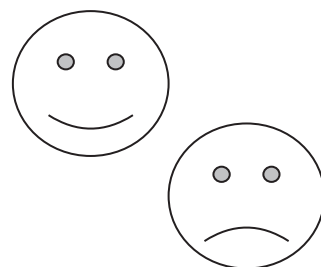
○演じる視点やポイントを生徒に理解させてから始めましょう。

動作化

登場人物の動きやせりふをまねすることによって、実感が伴った登場人物への共感が得られます。

イラスト化

表情のない顔の絵に表情を入れて、その理由を語ります。



留意点

- 教師は、生徒のせりふの言い方や身体表現の上手下手ではなく、その内容に注目できるように、言葉かけをしましょう。
- 生徒が相手の意見を言い負かしたり、一方的に自分の意見を発表するだけに終始するのではなく、資料中に描かれている登場人物の気持ちを表現することで、生徒自身の考えを練り上げていけるようにしましょう。